

大島支庁情報誌

第79号(H30.4)



(写真：H30.3.11「第9回宮古崎つつじウォーク」にて撮影)

～ 国立公園 ^{みやこぎま}宮古崎 ～

青い海・空と、群生するササのコントラストが素晴らしい公園です。東シナ海を目の前に、岬一带にリュウキュウササが群生しています。また、遊歩道、展望所があり、思勝湾、大和浜の集落、ウツ崎などを望むことができます。磯釣りも楽しめます。2018年大河ドラマ「西郷どん」オープニングロケ地です。

(鹿児島県観光サイト **とんどん** かごしまの旅より)

◆ 支庁長訓話	1
◆ 漂着油の初動対応について	4

平成30年度支庁長訓話

平成30年4月9日 大島支庁長 まつもと 松本 しゅんいち 俊一



おはようございます。鎮寺前支庁長の後任として、この度着任しました松本です。

私は、平成元年度から平成3年度まで土木課での勤務経験がありまして、今回2回目の大島支庁勤務となります。この奄美が世界自然遺産登録を迎えるタイミングで、また、県内でも一番、更には全国的にも注目度が高まりつつある奄美大島で、再び勤務できることを大変嬉しく、また、光榮に思っております。

少しばかり歴史を振り返ってみますと、私の支庁勤務時代は、バブル経済の真っ只中で、日本中がバブルに沸き立っておりまして、ここ奄美も例外ではなかったものと記憶しています。土木課も非常に沢山の事業を抱えており、当時は、用地担当として日夜交渉にかけずり回っていたことも懐しい思い出です。

その後バブル経済はあえなく崩壊、また、東西冷戦の終結や中国・韓国をはじめとする新興国の成長など、世界の政治経済情勢が激変・激動する中、日本経済は失われた20年とも言われる長期低迷期に苦しむこととなります。この間、鹿児島県庁も非常に厳しい行財政改革を進めてきたことは、皆さん御承知のとおりかと思えます。

また、日本の社会も少子高齢化が本格的に進行し人口減少局面に突入、地方においては自治体の消滅予測など、衰退論が話題になるような厳しい状況にも直面しております。

こうした大変厳しい社会経済情勢の下で、経済的なパフォーマンスでは華々しい成果はなくても、やはり、日本は洗練された成熟度の高い国としての評価と地位を着実に獲得してきたということも事実であろうかと思えます。

奄美にとっては世界自然遺産の登録が、今申し上げてきたような時代状況の中で進められていることは、非常に大きな意味があるのではないかと考えております。

奄美の他に類を見ない自然生態系や、地域毎に伝承されている独特の文化など、いわゆる目に見えないものの価値の本当の魅力と素晴らしさが、これから、洗練された目で評価され、ますます多くの方々が来島することになるであろうと思っております。

私の1回目の大島支庁勤務後、新和瀬トンネル、和光トンネル、網野子トンネル、名瀬港の埋立など、道路や港湾の整備も格段に進み、社会資本の整備には目を見張るものがあります。こ

れまで先輩方が営々と築いてきた、また、これから皆さんの力で整備が進められていくインフラは、奄美の持つポテンシャルを引き出しながら、その整備効果をこれから大きく発揮して行くことになるものと期待しております。

大島支庁としても、来島される方々が、奄美の魅力と素晴らしさを十分に体感・体験し満足していただき、何度でも来島したいと思っていただけるよう、知恵と工夫を尽くしながら様々な取組を進めて行くことが必要と考えております。是非、それぞれの所管の分野において、また、連携を図りながら、奄美の振興・発展に向けて、皆さんの力を発揮していただきたいと思っております。

昨今の仕事のあり方・進め方に関するキーワードの一つが、「働き方改革」であります。どちらかと言うと、労働時間の縮減やワークライフバランスとの関連で語られることが多いテーマではありますが、私は、もっと積極的に捉えて行くことが大事ではないかと考えております。

もちろん、台風常襲地帯の奄美においては、危機管理とその対応の業務が大きなウェイトを占めており、なかなか自然の力を人為的にコントロールすることは容易ではありません。ここはやはり、皆さんのマンパワーとノウハウが最大の力の源泉でありますので、よろしく願います。

仕事は合理的・効率的にスピーディに、そのためには時には前例を見直すような工夫も必要でありますし、何よりも皆さんに、的確な状況認識・判断、決断、実行をベースとして、マネジメント力を発揮していただくことが重要であると考えております。

「働き方改革」で生み出された時間は、ワークライフバランスはもちろんですが、是非、創造的＝クリエイティブな仕事への挑戦にも充てていただければ有り難いです。心身の健康、心身の余裕がなくては、よい仕事はできないというのが、私の信条でありますし、積極的な意味での「働き方改革」にも取り組んでいただきたいと思っております。

今回新たに赴任された皆様には、できるだけ早く職場に慣れることはもちろんのこと、奄美の自然や文化、人の素晴らしさにも触れていただきたいと思っておりますし、昨年以前からいらっしゃる皆様には、更なる御活躍をお願い申し上げて、新年度の訓話とさせていただきます。

皆さん、これから、どうぞよろしくお願いします。

～漂着油の初動対応について～

大島支庁総務企画課 主幹兼総務労政係長 神之田 光洋

今年の冬は例年になく冷え込み、ここ奄美でも、連日の北西からの季節風に震えている日々でした。

そのような中、1月14日奄美沖の東シナ海約300kmの海上において、タンカー沈没事故が発生し、奄美にも甚大な被害がなければと願っていましたが、1月16日に第十管区海上保安本部から「現時点では、奄美を含む日本への影響は少ないと見積られる。」との危機管理防災課への連絡があり、一安心したことを懐かしく思い出します。

タンカーの沈没も忘れかけて寒さに震えながらの日々を過ごす中、その日は突然前触れもなく北西からの冷たい風に乗って訪れました。

2月1日の木曜日、奄美海上保安本部が、笠利から宇検までの東海岸において、油状物の漂着を確認したことを報道発表しました。この日を境に大島支庁では、漂着油対策に追われる日々が続くことになります。

翌2月2日に奄美海上保安本部が島内市町村担当者を対象に打合会の招集を要請し、奄美海上保安本部から、大島支庁に情報連絡本部を設置すること、各市町村及び大島支庁で3日と4日の週末にそれぞれの対応などの考え方を整理し、5日の月曜日に再度打合会を開催することの指示がありました。

週末に支庁長を中心に、建設課との打ち合わせを断続的に行い、5日の2回目打合会を向かえ、各市町村と漂着状況の確認や奄美海上保安本部からの回収作業についての注意事項などについての情報を共有しました。

この会議において、奄美海上保安本部から漂着油に住民、ボランティアがむやみに近づかないよう注意喚起が必要と説明があり、その報道を受けた住民から、「県は早く回収しろ」、「初動が遅い」といった内容や、「漂着油の成分は何か」といった問い合わせがひっきりなしでした。

漂着から1週間後には回収作業を始められるよう、建設課が中心となり、回収用のドラム缶の手配や、試験的な回収作業を参考に回収マニュアルの作成、回収作業に必要な資機材の調達を行いました。



【報道取材を受ける建設課長】



【職員による回収作業】

情報共有窓口としての当課では、本庁との情報共有、予算関係資料の支庁内での調整を行っていましたが、この時期一番手間がかかったのは、県庁と各事務所間のメールの送受信や、国内の大学や市民からの問い合わせなどのインターネットメールの対応で、メールチェック、出力及び転送及び関係者への説明など、あっという間に1日が終わる感じで、毎日、職コミのメールボックス容量がすぐなくなり、メールを削除してはメールを送信する日々でした。

2月8日、油の漂着が確認されてから1週間後に、やっと大島支庁職員による回収作業が開始でき、その後、各事務所でも回収作業が本格的にスタートすることとなりました。

この頃には、沈没した船会社から委託を受けた業者においても、自発的な回収作業を開始し回収作業は加速していきましたが、これまでの調整先にこの業者も加わることにより、メールの送受信はさらに手間がかかることになりました。



【回収された漂着油】



【三反園知事による現地視察】

次週になると、知事が油漂着の現状について視察されるとともに、大島支庁の職員と一緒に回収作業を実施するなど、漂着油の現状を確認いただきました。

油の漂着からこの間、毎朝8時30分に支庁長室で定例打ち合わせを行い、また、次々に起こる事案ごとに、1日数回の打ち合わせを実施しましたが、総務企画課、建設課の両課長には報道の取材が相次ぎ、電話対応を行うのと併せて、報告書の作成に追われていました。

現時点では回収作業も進み、海上保安庁の発表では、油による汚染は確認されなくなっており、また、環境省の水質モニタリング調査では環境基準値等を越える項目はなく、沿岸生態系への影響把握調査でも海中でのサンゴ等への油状の物の付着は確認されていません。

砂浜などの海岸は、奄美らしい美しい元の姿に戻りつつありますが、全ての海岸線が油漂着前に戻ることを願っています。

このきれいな奄美の海を漂着油から守るための初動の対応は、支庁長の下、大島支庁各課が一体となって進めたことでうまくいったのではないかと思います。

奄美では、今でも観光客が増えています。現在放送中のNHK大河ドラマ「西郷どん」が、5月13日から8回にわたる奄美編の放送が始まるなど更に来島する人も多くなって来ることが見込まれます。皆様もこの奄美のきれいな海を思いっきり満喫するために、是非、ここ奄美においでください。

現在の海岸の状況



朝仁海岸(干潮時)



国直海岸(干潮時)



大浜海浜公園(干潮時)

1 鹿児島県毎月推計人口

平成30年3月1日現在の奄美群島の人口は106,941人で、前年の同月と比べて、1,512人減少しています。

	県全体	奄美群島	奄美群島				
			奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島
3月1日現在(人)	1,621,988	106,941	59,767	6,947	22,669	12,487	5,071
前年同月(人)	1,633,363	108,453	60,430	7,066	23,073	12,740	5,144
増減数(人)	-11,375	-1,512	-663	-119	-404	-253	-73
前年同月比(%)	-0.7	-1.4	-1.1	-1.7	-1.8	-2.0	-1.4

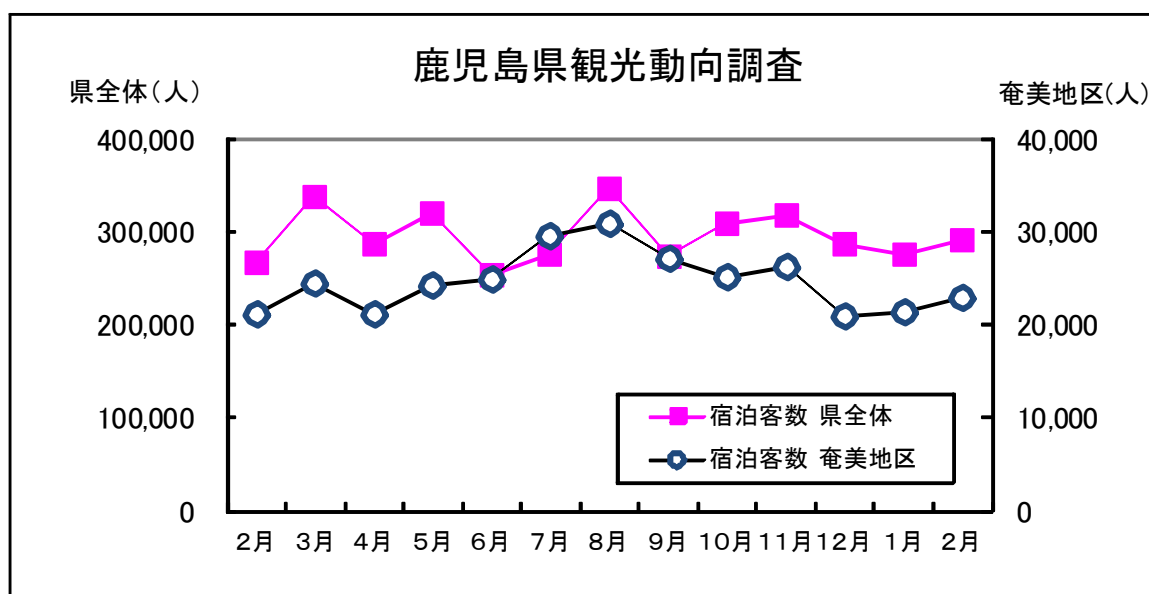
2 鹿児島県観光動向調査

平成30年2月における調査対象ホテル・旅館80施設の宿泊客数(宿泊延べ人員)は、合計290,865人で、前年同月比11%の増となっています。

奄美地区は、国内からの宿泊客、海外からの宿泊客ともに増加し、前年同月比7.7%の増となっています。

(単位:人, %)

	平成30年2月	前年同月比
県全体	290,865	11.0
奄美地区	22,773	7.7



3 大島紬

平成30年3月の生産反数は334反で、前年同月の生産反数368反と比較して9.2%の減少となっています。

	反数	男物女物別		染 別						累 計		
		男物	女物	泥染	泥藍染	藍染	化学染料染	草木染	複数染料染	生産金額 (千円)	反数	生産金額 (千円)
経緯緋	298	7	291	143	7		123	25		25,955	783	67,134
緯緋	36	0	36	0	0		24	12		1,464	78	3,108
計	334	7	327	143	7		147	37		27,419	861	70,242

《 発 行 》

大島支庁総務企画部総務企画課

TEL: 0997-57-7212

E-mail: oosima-soumu@pref.kagoshima.lg.jp

